

■黒田孝高(官兵衛・如水) 武将。秀吉が智を恐れると知り隠居、以後、参謀に徹して名をはせ、初代筑前藩主となった。

くろだよしたか

足利義輝将軍1546=

播磨国姫路で、播磨城主小寺政織の重臣黒田職隆(もとたか)の子に生まれる。有能だった父は、小寺姓を名乗ることを許され、小寺職隆として支城の姫路城代となった。黒田姓は、近江国の長浜の清和源氏という。母は小寺政織の養女(明石宗和の娘)岩姫。

ザビエル来日1549= 3歳:

大陸邦民事件1555= 9歳:

大友府内開港1559=13歳: 母が死去、

桶狭間の戦い・1560=14歳:

大村長崎開港1562=16歳: 初陣、

川中島の戦い終1564=18歳:

岐阜楽市楽座1567=21歳: 黒田家の家督を継いで、姫路城を居城とし、播磨国志方城主榑橋伊定の娘を正室とする。

織田信長入京1568=22歳: 嫡男長政(幼名は松寿丸)が誕生。

生涯、側室を持たず、愛妻家と呼ばれることになる。

播磨国が、勢力を拡大し始めた尾張国を統一した織田信長と、安芸国の守護大名毛利輝元の間には挟まれることになって、主君小寺政織に進言、

室町幕府滅亡1573=27歳: 使者として岐阜城を訪問し、信長に謁見。以後、織田信長に属し、その家臣豊臣秀吉の配下に入る。

安土楽市楽座1577=31歳: 播磨に進駐した秀吉に従って、信長の中国進出の先鋒を務め、姫路城が、中国征伐の重要拠点となったため、秀吉に譲渡。南の国府山城を修復し、父と共に居城とする。これが、初の築城で、以後、播磨国内の武将達に、織田軍の味方に付くように次々と説得、

上杉謙信没・1578=32歳: 荒木村重が信長に背いたとき、単身で、有岡城に説得に赴くも、逆に捕らえられて幽閉。信長は、寝返ったと勘違いして激怒、子の長政を殺すように、秀吉に命じる事態になるが、竹中半兵衛が従わずに、長政を匿う間、主君小寺政織も信長に謀叛、

安土教会許可1579=33歳: 有岡城が陥落して、奇跡的に救出されるも、頭髪は抜け落ち足腰は弱まり、変わり果てた姿となる。小寺政織は逃亡し病死、主従関係は崩壊する。信長、秀吉が半兵衛に感謝する前に病死してしまったことから、感謝の気持ちを忘れないため、竹中家の家紋“餅紋”を使うようになったという。以後、秀吉に重用されて、軍師としての才能を発揮し始め、三木城に籠城する別所長治を“兵糧攻め”で落し、

石山合戦終・1580=34歳: *播磨平定の功績で、播磨揖東郡内1万石を与えられる。築ノ丸城を居城として修理。

パニャーノ謁見 1581=35歳:

毛利軍との戦いでも、兵糧攻め“鳥取の渦殺し”で鳥取城を攻略。

本能寺の変・1582=36歳:

*備中高松城の水攻めを献策し、<本能寺の変>が起こると、秀吉に進言、毛利氏と講和して、中国大返しを実現させ、自らも山崎の戦いで明智軍を討伐、秀吉の天下取りを実現させて、その直属の部下となり、

賤ヶ岳の戦い・1583=37歳:

秀吉が大坂城の建設を始めるに際して、普請奉行になって、その設計に関わる。キリシタン大名だった高山右近に勧められて、洗礼を受ける。姫路城の瓦に十字が刻まれているのは、官兵衛の名残という。

豊臣秀吉関白1585=39歳:

四国征伐でも、知将ぶりを発揮して、長宗我部元親を降伏させ、

パネノ追放令 1587=41歳:

九州征伐に功を挙げた上、秀吉の命で、荒廃した博多の町を復興させ、豊前6郡を与えられる。功績から見ると少な過ぎる上、佐々成政が切腹に追い込まれたように、国衆の反乱で支配も困難を極めるが、

刀狩海賊取締1588=42歳:

秀吉の命で、宇都宮(城井)鎮房を鎮圧すると、堅固な平城の中津城を造って、物資や情報入手の拠点とし、また、領内に多数の攻略しにくい山城を造って、国衆に対抗。中津城内に、この地を400年に渡って支配してきた宇都宮氏を祀る神社を創建したことから、秀吉のやり方について行けず、さらには、自分の智と野心を恐れている秀吉の制裁が、わが身にも降りかかってくるのではと、

..... 1589=43歳:

前年の讃岐高松城に続いて、安芸広島城の設計も担当するが、領内すべてを制圧すると、家の子長政に譲り、剃髪して如水と名乗り、秀吉に近侍、

秀吉全国統一1590=44歳:

小田原征伐の際には、攻撃拠点の石垣山城を設計し、北条氏を説得して、無血開城させる偉業。

土農工商公布1591=45歳:

文禄の役・1592=46歳:

朝鮮出兵には、築城総奉行になって、肥前名護屋城を設計、城の設計ほか、秀吉に欠ける智謀を補い、秀吉にとっては、官兵衛なくては天下取りもあり得なかったともいえ、隠したかった存在であった。

慶長の役・1597=51歳:

慶長の役など、その参謀として軍略家の名をはせる間、秀吉に何かあれば、九州も一気に混乱に陥ることを予見して、九州全体の支配への準備を怠らずにするうち、

豊臣秀吉没・1598=52歳:

秀吉が死去、自らの力を発揮できる場が訪れることになり、九州支配の野心も芽生え、

関ヶ原の戦い・1600=54歳:

*<関ヶ原の戦い>では、子長政とともに徳川家康にくみし、長政に出陣させる一方、自らは豊前に残って兵を集め、名演説で士気を鼓舞、まず、豊後の大友義統を降伏させ、西軍大名の不在について次々制圧、無血開城も多く、兵もどんどん増えるほどで、加藤清正の援軍を得て、猛将立花宗茂にも勝利、島津氏を残すだけに至ったところで、家康から中止の要請に従う。関ヶ原での活躍で、長政に筑前一国を与えられると、

朱印船始制・1601=55歳:

博多に移住、福岡を縁のあった備前福岡にちなんで改称し、集大成となる福岡城の建設に着手するが、

糸割符法始・1604=58歳:

九州他国は結局、手にすることができなかったが、なお、戦闘意欲旺盛で、長政に、加藤清正や九州諸大名とともに、豊臣方として、家康と戦うこと意志のあったことを遺言し、*福岡城の完成を見ることなく、洗礼名をドン・シメオンを印文にした印判状を発給するほど、熱心なキリスト教徒のまま、療養のために移り住んでいた京都伏見藩邸で、没した。遺言により博多の教会堂に葬られた。

桜田晋也「大軍師」, 「日本史を変えた人物200人」, 「この人どんな人」, 「没年日本史人物事典」, 「人物日本歴史館」, 「日本の群像」, 平凡社百科事典, 山田風太郎「人間臨終図巻」, 歴史有名人の死の瞬間, 「武将の死因」。ホームページ「刀剣ワールド」, NHK「英雄の選択」により追補,